

JECC「保守サービス向上月間」で 優秀保守技術者・応募作入賞者を表彰

■ 10月9日開催表彰式の受賞者251名決まる 保守技術者全国25グループと応募作入賞者

JECCは1972年（昭和47年）以来、毎年10月を「保守サービス向上月間」と定め、コンピュータ保守技術者の日頃の努力を称える「優秀保守技術者表彰式典」を開催している。今年で54回目を迎える式典は、丸ビル ホール&コンファレンススクエアで行われ、同時にオンラインでも配信される。

このほど今年度の受賞者として、優秀保守技術者25グループ計242名と、保守サービス向上月間標語及び保守サービスにおける感想文の受賞者9名を決定。来る10月9日に、第54回優秀保守技術者表彰式典において表彰を行うことにした。

今回選出された優秀保守技術者は、25グループの242名。この優秀保守技術者の審査は、コンピュータ・メーカー 6社から委託を受けた保守サービス担当会社並びに保守担当先のお客様から推薦書が提出された者を対象に、保守サービス会社及びJECCで構成する「保守サービス責任者会議」において、以下3つの選考基準に基づき行われた。

①担当するお客様における保守状況が良好で、システム

の故障時間が極めて少なく、システムの円滑な運用に顕著な功績があったと認められる者。

②保守技術者の活動を支援し、保守サービスの向上に特に功績があったと認められる者。

③保守技術の改善に特に功績があったと認められる者。

また、JECCが保守サービス関係者を対象に募集した「保守サービス向上月間標語」は、ハードウェア・ソフトウェア保守サービスの重要性や、保守技術者並びに保守サービス事業に携わる者としての心構えを端的に表現した内容で、最優秀作品に関しては、その年の保守サービス向上月間のポスターなどに掲載される。今年度の応募数は12,392編となり、保守サービス責任者会議で審査した結果、最優秀賞1編と優秀賞4編を決定した。

「感想文」は保守サービス全般をテーマとし、標語と同様に募集を行い、今年度は260編の作品が寄せられた。その中から最優秀賞1編、優秀賞3編、入選作品31編が選ばれた。いずれも保守技術者や保守サービス関係者の業務への努力や意欲・情熱が感じられ、極めて優れた内容となっていた。

また、式典では一般社団法人RCF 代表理事 藤沢 烈氏が、「地域復興・創生における企業の新たな役割」のテーマで記念講演を行う。



未来はいつも、
誰かの想いからはじまる。

世界に、未来への確信を届けたい。
社会課題を解決する「Fujitsu Uvance」から。

Fujitsu Uvanceの取り組みについてはコチラ





Fujitsu
Uvance